

もうすぐ春節！中国のお年玉事情

JSC 貿易部ニュース

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。

去年は多くのお力添えいただき誠にありがとうございました。

今年も製品、サービスの質の向上に対して社員一同努めて参ります。皆様のより一層のご支援を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

さて、中国では旧暦の1月1日にお正月を迎えます。元旦は春節と呼ばれ、故郷から遠く離れ働いている人たちもみんな帰省して一家団欒の時間を過ごします。2024年の春節は2月10日。春節のときには日本と同じようにお年玉をやりとりする習慣がありますが、日本のお正月とどう違うのか気になりますよね。

お年玉は中国語で「压岁钱(ヤースイチェン)」といいます。親が子供に渡すだけでなく、目上の方が、学生や独身者や会社の部下たちに渡す地域もあります。そこで今回は、中国に7年住んだことのある私がお年玉の相場やタブー、昨今主流のモバイル決済など気になる現地のお年玉事情をご紹介します。

中国のお年玉事情！私が聞いた8つの文化！

お年玉の始まりにはこんな話が伝わっているそうです。

昔、大晦日になると山から村へ降りてきて、家に入り、眠っている子供を長い手で撫で魂を抜いてしまう魔物がいたそうです。緑の眉毛と赤い目を持つ恐ろしい魔物だそうです。親たちは眠らずに子供を見守っていましたが、見張りの甲斐もなく撫でられた子供は死んでしまうのです。

とある村に鍛冶屋の夫婦と小さな娘が住んでいました。大晦日の夜、娘が飴を欲しがりましたが無かったので、代わりに銅銭を赤い紙に包んで枕元に置いてやりました。その晩、魔物が現れ娘を撫でようとしたとき赤い紙の中の銅銭がピカッと光ったかと思うと、魔物は大声をあげて去って行きました。次の朝、元気よく目覚めた娘を見て、赤い紙に包んだ

銅銭が魔よけになったのだと理解しました。

それを聞いた村の人たちは子供の枕元に赤い紙に包んだ銅貨を置くようになり、これが
お年玉の習慣として各地に広まったという言い伝えがあります。



お年玉は中国語で何という？

中国語で「压岁錢(ヤースイチェン)」と呼ばれるお年玉。これはお年玉の由来となった伝説の魔物の名前に関係があります。

魔物の名前は「祟(sui)」といい、輝く銅貨がこれを退治してくれることを「压岁(yasui)」と表しましたが、「祟(sui)」という字が良くないので同音の「歳(sui)」の字が使われるようになり「压岁錢」として広まりましたそうです。

また縁起の良い赤の袋に入れて渡されることから「紅包(ホンバオ)」とも呼ばれますが、紅包はご祝儀袋を指すので、お年玉だけでなく結婚祝いやボーナスの意味で使われることもあります。

お年玉を渡すタイミング

日本と同じように、中国でも家族や親族、旧友などが集まり春節の挨拶を交わしますので、そのタイミングで年長者が目下の者たちに配るのが一般的とされています。地域によっては年長者に対し長寿や健康を祝して渡します。また、年末に上司が部下に配ることもあります。

私も以前の勤務先で中国人の部下から「どうして日本人は上司から部下にお年玉を配らないの？」といたずらっぽく聞かれたことがありました。

地域によって大きく違う！お年玉の金額の相場

では中国のお年玉の相場はいくらでしょうか？

中国を代表するフィンテック企業「挖財记账理财」の“全国お年玉マップ”によると、お年玉の相場は青海省や貴州省の 300 元(日本円約 6,000 円)から福建省の 3,500 元(約 70,000 円)まで幅広く、平均を出しづらいのが実情です。我々、石材業界のゆかりの地である福建省がトップなのがびっくりです。

都市部と地方では経済格差も大きく、沿岸部が 500～1,000 元、内陸部が 300～500 元が相場になります。また金額は渡す相手によっても変わってきます。自分の子供には 100 元～、学生や後輩などの若い人には 50 元～200 元、部下には 100 元～1,000 元、年長者には 400 元～2,000 元が相場とされています。

中国の富裕層のなかには「自分の子供に 5,000 元(約 100,000 円)」という人もいるくらいなので相場はあくまで目安です。実は広東省の平均は 50 元(約 1,000 円)とほかの地域に比べ群を抜いて低いのですが、春節中に会う人全員に 10～50 元のお年玉を渡す習慣があるためだとか。



お年玉を渡すときに気をつけたいポイント

中国人は日本人以上に数字を気にします。「好事成双(良いことは対になっている)」のことわざの通り、偶数が縁起の良い数字として好まれますので、お年玉の額も必ず偶数にします。

ただし、4(スー)は死(スー)と同音なので避けたほうが良いでしょう。ちなみに縁起が良いとされる数字は「財産ができる」の意味を持つ「発」に発音が似ている 8 や、「物事が順調にいく」を意味する「六六大順」の 6 になります。

靴や傘は NG！注意が必要な春節の贈り物

春節の時期に親族や旧友にお年玉だけでなくプレゼントを贈る人もいますが、ここでも注意が必要です。新しい 1 年を良い年にしたいため中国人は普段以上に験(げん)を担ぎ、縁起の悪いものを避けたがります。

ですので「靴(シエ)」(邪であることを意味する「邪(シエ)」と発音が相似)、「梨(リー)」(別れる、を意味する「離(リー)」と発音が相似)、「傘(サン)」(バラバラになることを意味する「散(サン)」と発音が相似)などは春節にふさわしくない贈り物とされています。

モバイル決済が主流に!大きく変わるお年玉事情

日本以上にモバイル決済が主流になっている中国。特に都心部では9割以上の人モバイル決済を利用しているとのデータもあり、その影響はお年玉のやり取りにも顕著に表れているようです。

中国の電子マネーというと、メッセージアプリ「WeChat」のWeChat Pay(微信支付)と、中国最大のインターネットショッピングタオバオを運営するアリババ・グループの展開するアリペイ(支付宝)が有名です。

WeChat Payでは個人にお年玉を送るのはもちろん、チャットグループ内にくじ式のお年玉を送り誰が高いお年玉を引き当てるかを楽しんだりするゲームもあるそうです。

一方アリペイは2016年から「福」の字を5つスキャンして送ったユーザーを対象に総額5億元のお年玉を振る舞う「5福を集めるお年玉キャンペーン」を実施。街中でスマホを片手に「福」の字を探す姿が春節の風物詩になりつつあります。

日本からの旅行者も電子マネーでお年玉を渡せるか

WeChat Payもアリペイもアプリをダウンロードするのはそう難しくありませんが、スマホ決済には中国国内で銀行口座を開設する必要があります。

外国人の口座開設はここ数年で厳しくなり、パスポートだけでなく外国人居留証(ビザ保持者申請、就業ビザ、家族訪問ビザ)の提出が要求されるので、旅行者には少しハードルが高いですが、中国在住者に送金してもらい、それを受領して支払い決済に再利用する事は可能です。

いかがでしたか？

子供だけでなく年下の友人や年配者にも渡す中国のお年玉文化。私も改めて中国のお年玉の相場のデータを見て思いましたが、来年は親戚の子供たちに渡すお年玉の金額も、アップしないとイケないかと思う、今日この頃です。

今月の石種情報

「#213」

まずは、現状採掘が止まっている石種「#213」ですが、一部で「丁場再開」の話がチラホラ出てきております。12月初旬ごろから動き出すのでは？との噂もありましたが、現時点では不確かな情報のため、まだ稼働していない可能性もあります。仮に再開したとしても、実際に石が出て、動き出すまでは、まだまだ時間が掛かりそうな状況と言えます。

また、ここ数年で話題になった石種や話題の新石種など、何石種か振り返ってみたいと思います。

「OW-1」

カンボジア産の白御影石。2023年、使用される切数が大幅に増えた石種です。石の難点や経年変化などの問題も少なく、いま比較的安定している石種の1つだと思います。注文量が増え、各工場も購入に力を入れており、リーズナブルな価格になってきています。

「OW-2」

カンボジア産白御影石。「OW-1」に比べ、やや色が濃く、石目が細かいのが特徴です。「OW-1」と同系統の石ですが、今年に入り「OW-1」と「OW-2」を分類して案内してくる工場が増えてきました。「OW-1」と比較して使用実績が少ないため、経年変化やその他の問題などの情報提供は、もう少し先になるかと思います。また、色の濃淡や石目の大きさなどは、生産する工場によって、差がありますのでやや注意が必要です。



OW-1

OW2

カンボジア 654 (青山 654) 中目

カンボジア産 654 系石種。カンボジア 654 は数種類の石目が存在します。その中で、比較的問題が少なそうなのがこちらの中目になります。各工場で生産され始めていますが、まだまだ実績も少なく、経年変化等の問題も今後注目していきたいところです。



カンボジア 654 (青山 654)

カンボジア 654 細目

カンボジア産 654 系石種。こちらの細目は問題が比較的多く、各工場も使用を推薦しておりません。特に、黒玉、色差、ムラ、目合いが均一ではない等の問題点があげられます。また、原石よっての個体差が大きいです。



カンボジア 654 (細目)

晋江（シンコウ）地区工場撤退（移動）の噂

以前から出ていた話ではありますが、晋江（シンコウ）地区の石材工場が立ち退き、または移転の可能性がある、という話が出てきております。晋江地区は、泉州市にある主に壁石や敷石、間知石などの手加工品の石材製品を生産している小さな工場が集積する地域です。

環境保護や土地の再開発の名目で、これまで何度も立ち退き・移転の話が出ては立ち消えになっていますので、今回もどうなるかは不透明ですが、政府からの要請に同意し始めている工場もあるようで、徐々に具体化してきている模様です。仮に移転となった場合はコストアップによる手加工製品の値上げが懸念されます。

引き続き情報収集をし、新しいニュースがあればお知らせしていきたいと思っております。

今月のメルマガは以上です。最後までお読みいただき有難うございました。

2024/01/01